

24-05-10

## 2024 年度 名古屋鉄道 設備投資計画

名古屋鉄道では、「名鉄グループ中期経営計画」（2024 年度～2026 年度）に基づき、2024 年度設備投資計画をまとめました。

2024 年度においては、鉄道事業における安全・安定輸送確保および駅・車両の快適性向上に向けた投資のほか、沿線・地域の活性化に資する取り組みへの戦略的な投資を継続して行います。

## ■ 設備投資計画の概要

事業	主な投資項目	金額
I. 鉄道事業	1 安全・安定輸送確保 ・高架化工事の実施 ・高架橋柱の耐震補強の実施 ・安全性向上および省力化に向けたシステムの導入拡大 ・金山駅におけるホームドアの実証試験の実施	153 億円
	2 駅・車両の快適性・利便性向上 ・通勤型車両 9500 系および 9100 系の新造（計 16 両） ・鉄道車内防犯カメラの設置拡大および機能追加 ・新型券売機や新型チャージ機の導入 ・QR コードおよびクレジットカード等のタッチ決済による改札通過の実証実験の拡大	74 億円
	小 計	227 億円
II. 開発事業	・東岡崎駅再開発計画の推進 ・布袋駅高架下開発の推進 ・神宮前駅西街区再開発計画の推進 ・名鉄新一宮ビルリニューアルの推進	114 億円
III. その他	・エリア版 MaaS「CentX」の進化および展開の強化 ・業務効率化に向けた DX の推進	19 億円
	総合計	360 億円

(参考)名古屋鉄道を含む名鉄グループ設備投資計画の総額： 982 億円

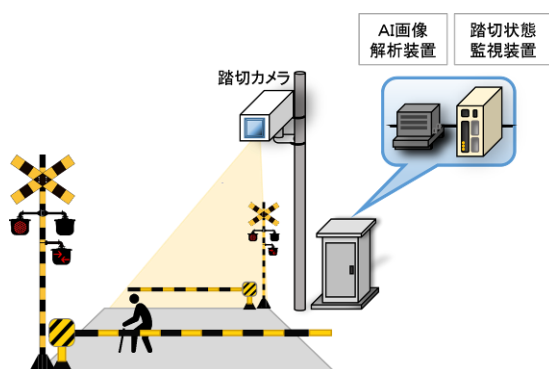
## I. 鉄道事業の主な項目

### 1. 安全・安定輸送確保

- 安全対策推進と都市計画事業の一環として、4カ所で高架化工事を実施します。

	区間	距離	除却踏切数
知立駅付近 (名古屋本線・三河線)	一ツ木駅～牛田駅間	1.6km	2カ所
	重原駅～三河八橋駅間	3.4km	8カ所
喜多山駅付近 (瀬戸線)	小幡駅～大森・金城学院前駅間	1.9km	8カ所
若林駅付近 (三河線)	三河八橋駅～竹村駅間	2.2km	4カ所
荏安賀駅付近 (尾西線)	二子駅～名鉄一宮駅間	1.8km	3カ所

- 大規模地震による被害を最小限に抑えるため、高架橋柱の耐震補強を実施します。
- 踏切障害物検知装置の更新や、AI画像解析装置を導入した踏切監視システム導入踏切の拡大により、踏切道の保安度向上を図ります。



AI画像解析装置を導入した踏切監視システム(イメージ)



AI画像解析装置により物体を検知している様子(イメージ)

- 2024年10月から2025年3月頃まで、プラットフォームの安全対策として、金山駅上り3番ホームでホームドアの実証試験を実施します。



ホームドア設置イメージ

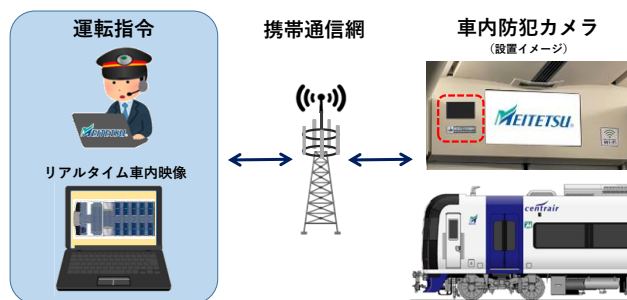
## 2. 駅・車両の快適性・利便性向上

- 通勤型車両 9500 系・9100 系を、計 16 両新造します。昨今の鉄道車両内での異常事態発生を受けて、避難誘導の円滑化を図るため、2024 年度より、正面貫通扉を中央に配置して、将来的に連結運転時に常時通り抜けが可能な構造にします。また、環境にも配慮しており、走行時に使用する電力量は更新対象となる従来の通勤型車両の 5 割程度です。

※9500 系（4 両組成）3 編成、9100 系（2 両組成）2 編成



- お客さまの安全確保に向けて、鉄道車内防犯カメラについて、2028 年度までに廃車対象を除くすべての車両に設置完了することを目指します。また、携帯通信網を利用して運転指令などでリアルタイムに映像を確認できる通信機能を新たに追加することで、車内での犯罪・迷惑行為の抑止および迅速な状況把握による適切な対応を可能とします。

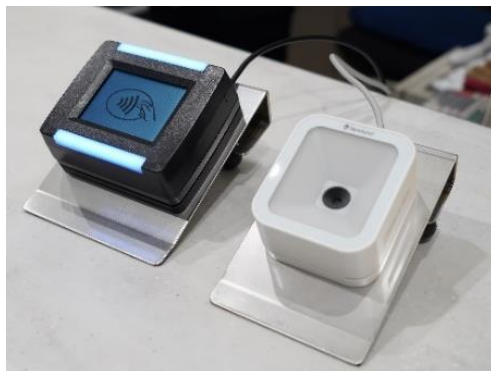


車内防犯カメラ映像通信機能のイメージ

- 継続定期券発売・クレジット決済対応可能な新型券売機や、精算機能を追加した新型チャージ機の導入を進め、利便性向上とより効率的な駅運営を目指します。

- 中部国際空港駅、名鉄名古屋駅、金山駅で実証実験を実施しているタッチ決済について、2024年秋より対象駅を拡大し、自動改札機にてQRコード表示およびクレジットカード等のタッチ決済による改札通過ができるよう整備を進めます。

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



実証実験の様子



読み取り機器付き自動改札機 設置イメージ

## II. 開発事業の主な項目

- 東岡崎駅再開発計画の推進

4月25日、東岡崎駅再開発計画の第一弾として、南口商業施設「SWING MALL」を開業しました。

当開発計画では、開発コンセプト「SWING HIGAOKA」を基に、引き続き岡崎市と連携しながら、2029年度竣工予定の北口複合施設をはじめ、駅施設を起点とした躍動的なリズム（人の流れ）を創り出すまちづくりを進めます。



4月25日開業「SWING MALL」



北口複合施設（イメージ）

- 布袋駅高架下開発の推進

2024年秋頃の開業を目標とし、布袋駅において、高架下の空間に物販やサービス等の木造商業施設を展開します。

○ 神宮前駅西街区再開発計画の推進

「おとなの行きたいまち」を目指し、観光客などの来街者をターゲットとする商業施設を展開します。3棟の木造平屋建ての建物に、地域で長く愛されているお店や、食べ歩きも楽しめる地域食材を使ったお店、地元の文化を感じられるお店等のほかワゴンやキッチンカー等も誘致し、賑わいを創出します。開業は1期が2024年9月、2期が2024年12月の予定です。



施設完成予想図（地上西側より）

○ 名鉄新一宮ビルリニューアルの推進

『つむぎ彩る毎日を ～一宮(いちみや)十色(といろ)～』をリニューアルコンセプトに、日常を彩り豊かにつむぐ施設を目指して、設備更新や補修を行います。着工は2024年4月以降、竣工および開業は2025年度中を予定しています。

---

### Ⅲ. その他の項目

---

- エリア版 MaaS「CentX」をさらにおでかけに便利なアプリとするべく機能強化を図るとともに、地域の企業・団体、自治体などとの協業や連携拡大を進めます。

以上